

基調報告2

シアクアラ大学大学院 防災学専攻とその社会的役割

シヤムスル・リザル シアクアラ大学大学院長

Syamsul Rizal (Program Pascasarjana, Universitas Syiah Kuala)



シアクアラ大学大学院の現状をご紹介したいと思います。シアクアラ大学には1つの大学院のもとに14の専攻があります。専攻を編成するときに気を付けなければならないのは、インドネシアでは教育制度が日々変わるため、新しい専攻を作るときに制度と噛み合わなくなってしまうことがあるということです。

■ 社会人向けに特化した 災害対応を学ぶ大学院の設立を構想

とくに防災学専攻に関して現在私たちが考えているのは、通常の大学院とは別に社会人を対象とした災害対応の大学院を設置しなければいけないということです。とくに公務員が大学院で災害対応について勉強できるようにしたいのですが、ここでの問題は、公務員はいったん仕事を離れてしまうと職場に戻ったあとにきちんとした職につけないということです。修士号をとって地位自体は上がったにもかかわらず、戻った後できちんとした職が得られないということがあります。

社会人向けの大学院を構想する上で、職場を長く離れることがないようにするため私たちが考えていることは、まず3週間から1か月くらいの集中授業を行い、その期間は公務員にも授業に参加してもらって、その後は再び公務に戻って、さまざまな課題には各自が自宅で取り組むというかたちです。これによって仕事と大学院での学習を両立することができると考えています。

災害対応にあたって、それぞれの地域にいる公務員の役割は非常に重要だと思います。災害はいろいろな地域で起こりますから、各地にいる公務員がきちんと災害に関する知識をもつことが重要です。公務員としての仕事や職場における立場を維持したままで災害対応の知識を身につけてもらうことが重要です。

現在はまだ社会人向けのシステムにしていなかったために、防災学専攻に集まっているのはNGOの人が中



資料19-1 シアクアラ大学

心となっています。公務員もいますが、通学の都合があってバンダアチェ市周辺の人たちだけとなっています。私たちは、アチェ州の各県にいる公務員が防災学の修士号をとれるようにしたいと思っています。

■ 公共事業省との連携で 住民意識の向上、市街対応の向上に貢献したい

また、社会人向けの防災学専攻の運営にあたっては、公共事業省と連携したいと考えています。公共事業省と連携して実地の体験などをすることで、アチェ州各地で災害が起こりやすい地域にいる公務員が重要な経験を積めればと思っています。この専攻を修了した人たちが住民のなかに入って、住民の意識向上や災害対応の向上に貢献することを願っています。

私たちが懸念するのは、情報が届きにくい遠隔地の人たちに適切な知識が伝えられず、そのために災害の犠牲になることです。アチェ州の各県からたくさんの人を集めることで、卒業生がそれぞれの土地に帰って災害対応の先頭に立つことを願っています。

また、住民の能力の向上といったとき、災害だけではなく、その分野は多岐にわたっています。森林開発、観光、水産業等、さまざまな分野において住民の生活能力の向上を図りたいと思っています。